

春分儀式

I O S 儀式魔術文書 VE99A

- | | |
|-------|---------------|
| 第 1 章 | 解 説 |
| 1 | 司官の配置 |
| 2 | アストラル神殿の構造 |
| 3 | 身辺の準備 |
| 第 2 章 | 儀 式 |
| | 神殿への入場 |
| | ウシャブティ |
| | マルクト神殿（四大の別院） |
| | アシムの召喚 |
| | 四門の固定 |
| | 跳躍する術式 |
| | PWの交換 |
| | 宇宙の主への賛歌 |
| | 竜の逆周行 |
| | 門の解放 |
| | アシムの帰還 |
| | 地上への帰還 |

THE OFFICIAL ORGAN
OF
I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE VERNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。本儀式では、マルクト神殿の地下部分(『四大の別院』)を核として実践する。

儀式内容は、《黄金の夜明け団》の「竜の天球」と結びついている。本儀式においては「跳躍する術式」が用いられており、マルクト神殿のなかにイエツィラーのマルクトの火が投影される。儀式に関連する魔術理論については、『黄金の夜明け魔術全書』下巻「北極周辺の4エースに象徴される諸力の渦巻き周天の法則」を参照すること。

1 司官の配置

a 司官の指定

本儀式に必要な司官の人数は、次の5人である。

それぞれの太守(ドミノス)は男性形の天使を、貴婦人(ドミナ)は女性形の天使を神の姿形として纏う。それぞれの天使は、ASHIM天使団に属し、四大の守護者である。

DOMINUS COLUMUNA (DC) 柱の太守 = 霊 = AMVDIAL (アムディエル)
DOMINUS AURORA (DA) 夜明けの太守 = 風 = ChShN (チャサン)
DOMINUS VASTITAS (DV) 砂漠の太守 = 火 = ARAAL (アラル)
DOMINA PONTUS (DP) 深淵の貴婦人 = 水 = TLIH D (タリアハド)
DOMINUS BOREALIS (DB) 極北の太守 = 地 = PVRLAK (フォルラク)

b アシムの召喚

四人の司官は、マルクト神殿の別院でアシムを召喚し、アムディエルの呼びかけで「肉の衣を去る」までは、実効上の天使として活動する。ちなみに天使の言う「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

「アムディエルのテレズマ的イメージ」

きわめて長身の中性的な天使である。青い六芒星の飾りがついた帽子を被り、細く柔らかそうな髪は、緑の布で包まれている。やや細面の白皙の美貌は、ヴェールををを介したように臆な微笑みを浮かべている。

ビザンチン風にまとめられた裾の長いエメラルド色の長衣(パリウム)の上にオリブ色の肩衣を掛け、ユダヤの神官が使う方形の宝石で飾られた胸当てに似た金属の飾りを幅広い十字文様の入った折り返した布で支えている。肩掛けの下から覗く、金色織の長い布(エピトゥラチリウム)は、緑灰色の糸で刺繍を施され裾近くまで真っ直ぐに伸びている。深い青緑の靴は、長衣の裾から僅かに覗いている程度である。

左胸に大版の書物を抱き、四枚の光翼を上下に広げている。

「チャサンのテレズマ的イメージ」

どちらかと言うと中世的な出で立ちである。七色の宝石で飾られた頭巾は、後ろに垂らさず、鶏冠のように頭上にまとめ上げている。頭巾の額の部分には、宝石の上に風のシギルが貼られている。やや険のある顔立ちは、上品だが視線は鋭い。猛獣の牙を首飾りにまとめ、茶色の身体にフィットする胴着を着込んでいるが、裾の深く切れたゆったりとした灰色の長外套を被っているため胴着はほとんど見えない。右手は胸の前にエジプト風の黄色の笏を保持している。

薄赤い布を張り合わせたタイツ用は、茶色の鱗状の革を張り合わせた靴で終わっている。靴の踵には、羽毛のような、或いは魚の尾鰭のような風切りがついている。

この天使の光翼は、椰子の葉が連なるように奔放に上方へ伸びている。

「アラルのテレズマ的イメージ」

伝統的なガリア人の戦士の武装をした天使である。猛禽の巨大な羽根で装飾した円筒の青銅製兜を被り、兜の前面には赤い金属製の火のシギルが彫金されている。剛い赤毛を肩に垂らし、やはり脱色したように赤い豊かな髭を鼻の下に蓄えた意志の強そうな表情をしている。珍しい半袖のチュニックを肌につけ、その上によく磨いた鎖鎧を着込み、さらに黄金色の毛皮をまとっている。膝までしか届かない短い青の戦闘用マント(サグム)を肩にかけ、右手には巨大な両手もちの大剣、左手に角のついた円形の盾を下げている。エメラルド色のタイツは、丈夫な革ひもで押さえられ、厚い戦闘用革靴(ガリ

カ)まで、その革ひもが編み込まれている。
天使の光翼は、羽根を休める猛禽のイメージである。

「タリアハドのテレズマ的イメージ」

休廷婦人の衣装をまとう女性形の天使である。古い型の小帽子(トルク)の前面に青い水のシギルが縫い取ってある。古風な耳飾りが、短くまとめられた銀の髪の上に覗き、ひだ襟に隠された咽元はつややかに白い。穏やかなまなざしは、遠くを見つめるようだが、薄い唇は固く結ばれている。緑灰色のローブは、ウエストから裾まで三角形に開き、輝く炎の色のスカートを覗かせている。スカートの裾には、初春の緑を意匠した緑の広葉樹の葉の刺繍が施されている。彼女は、銀の簡易水差しを吊り下げた銀系の飾りひも(シェーナ)を右手に下げている。スカートの裾から僅かに垣間見る小ぶりな靴は、今にも前に歩みだしそうである。

天使の光翼は、穏やかなオーラの衣として背後に広がっている。

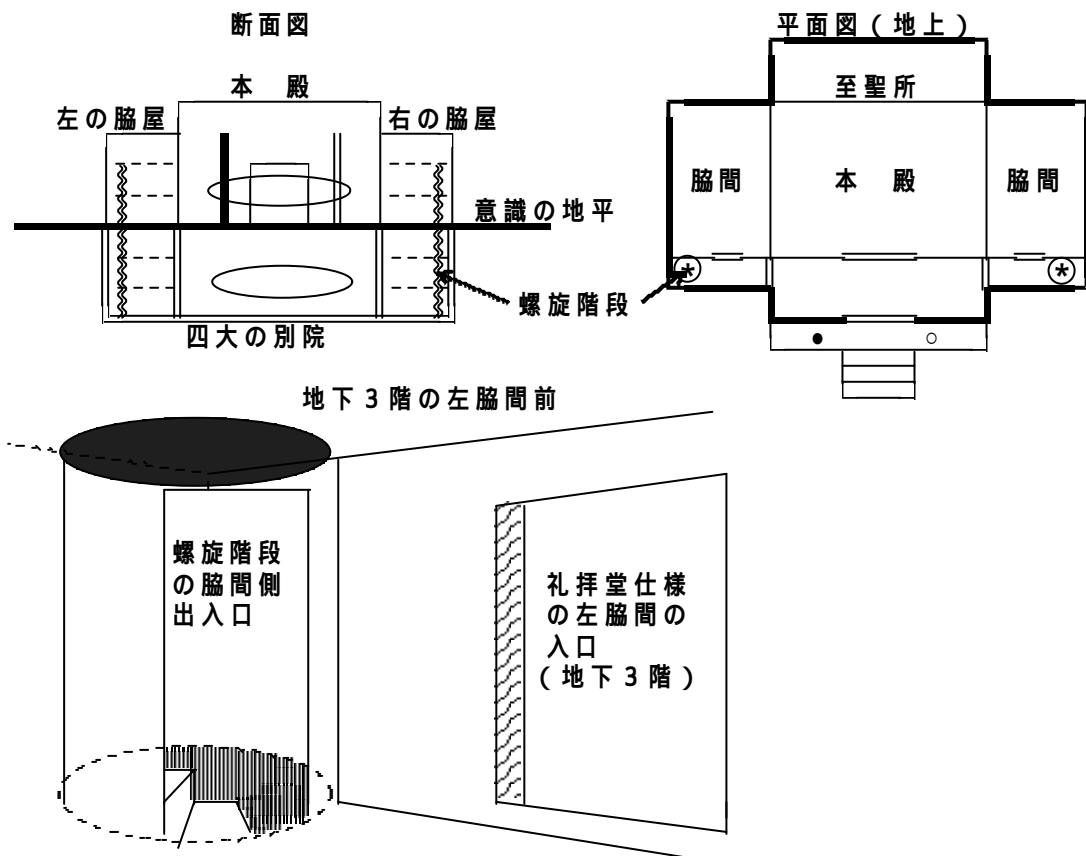
「フォルラクのテレズマ的イメージ」

ペルシア・アッシリア様式の重いローブをまとった天使である。ヴェネチアン・レッドの兜には、黄金の角が左右に2対絡んでいる。その下の長い髪と顎鬚は、細く結び上げた上に油で固めて棒状にしてあるため、赤いひもを垂らしたようだ。丈の長いメド・ベルシアン・ローブは、濃い琥珀色でその縁は、三重の紐飾りが囲んでいる。胸には擬人化した太陽の顔を真鍮の円盤に彫り込んだ胸飾りを吊している。ローブの開いた前面から、2重の緑のベルトと、エメラルド色の腰布が覗いている。かれは右手に青銅の器をかざし、左手に透明なつるを張った弓を下げている。剥き出しの腕や、膝下の素肌は固く盛り上がった筋肉の層で鎧われ、素足に履いたサンダル先まで力が漲っている。

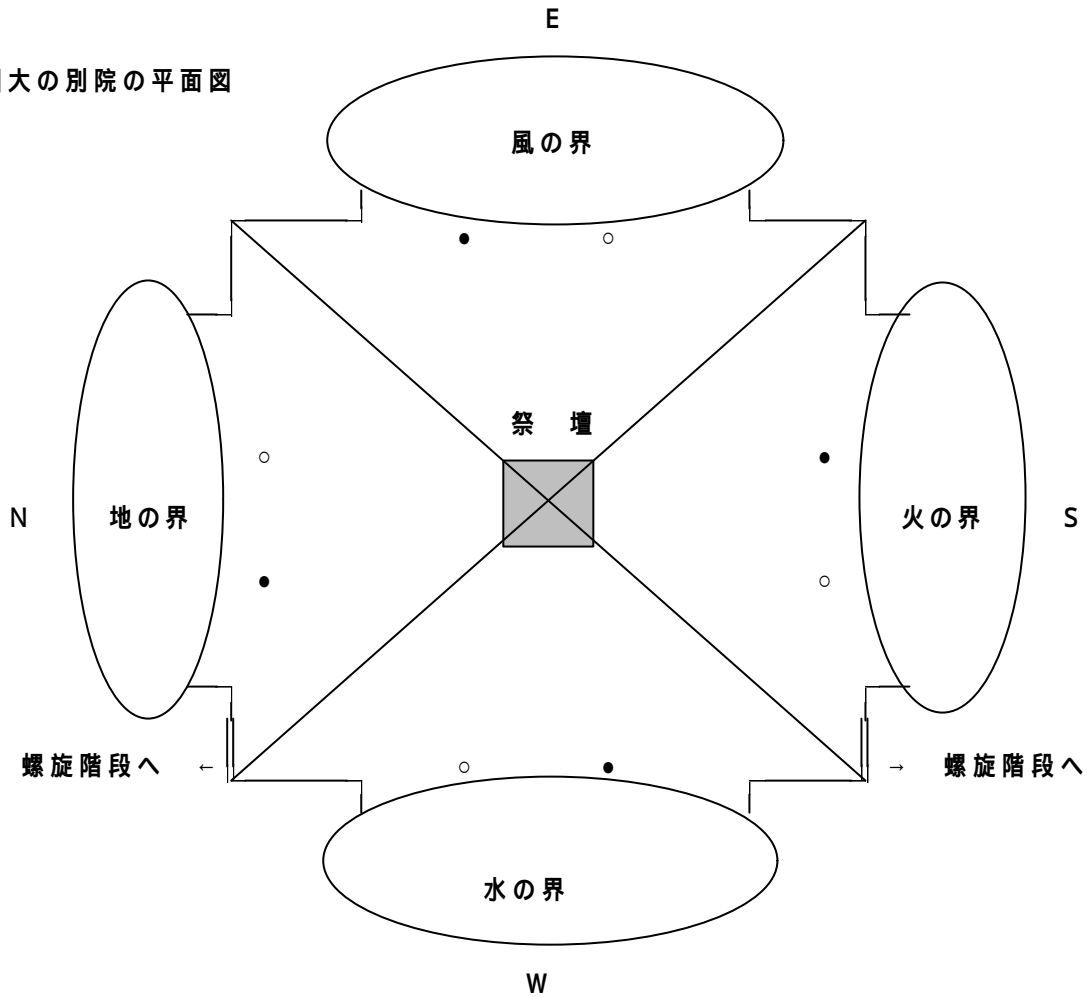
天使の光翼は、猛禽のように猛々しい。

2 アストラル神殿の構造

本儀式においては、マルクト神殿の別院を使用する。それは、ソロモン神殿を忠実に模した団のアストラル神殿の史実には残されていない下部構造である。ソロモン神殿の本殿の両翼には、3階建ての脇屋があり螺旋階段で連結されていた。今回は、この脇屋から神殿の地下下に入り、本殿の真下にある四大の別院を使用する。



四大の別院の平面図

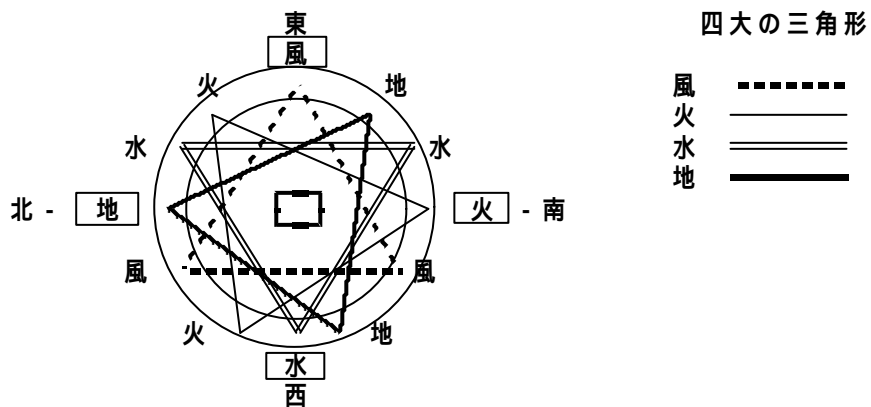


主 祭 壇 : 黒の大型二重立法祭壇。
 ヤキンとポアズ : 石榴の頭飾りを乗せた標準的な白柱と黒柱は、
 各方位の壁の中央に門を形成している。

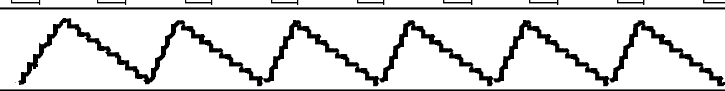
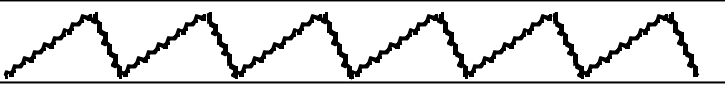
b 跳躍する術式

跳躍する術式では、四大の竜が神殿の仮想獣帯を逆行（左回り）する。四人の司官は、それぞれの竜の頭となり、各宮の四大特性に反発、誘引されながら、中心の祭壇に跳ね上がるような運動を行いつつ、象徴的な逆周行を行う。

ただし、四大の別院の内部には、ねじれた獣帯が投影されているので、四大の順序は占星学における獣帯の順序ではなく、下図の配列となる。

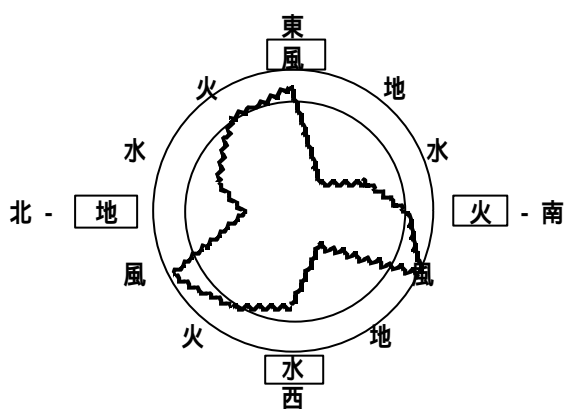


四大の竜それぞれの運動は、下表のとおりであり、能動（受動）の元素は、受動（能動）の元素に反発し、自分と同じ能動（受動）の元素に弱く引かれる。

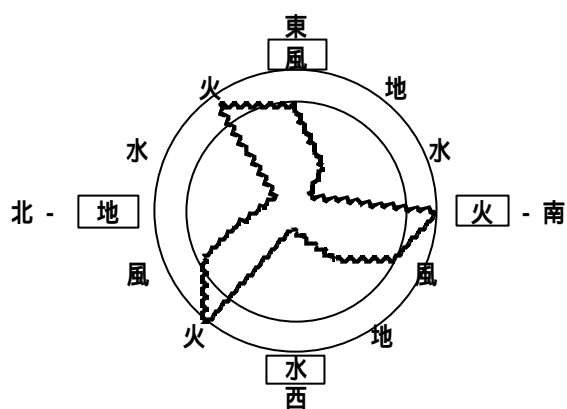
方位	東	南	西	北	東	南	西	北	東	四大相互の 引力と斥力							
元素	火	風	地	水	火	風	地	水	火		風	地	水	火	風	地	
風 竜																風：強引	火：弱引
火 竜																火：強引	風：弱引
水 竜																水：強引	地：弱引
地 竜																地：強引	水：弱引

それぞれの竜の頭の動きを追うと下図のとおりとなる。

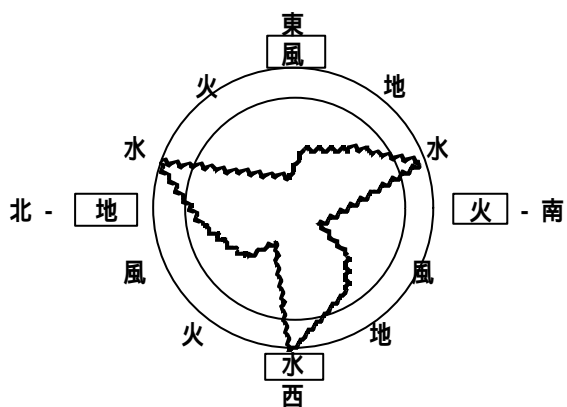
風の竜の軌跡



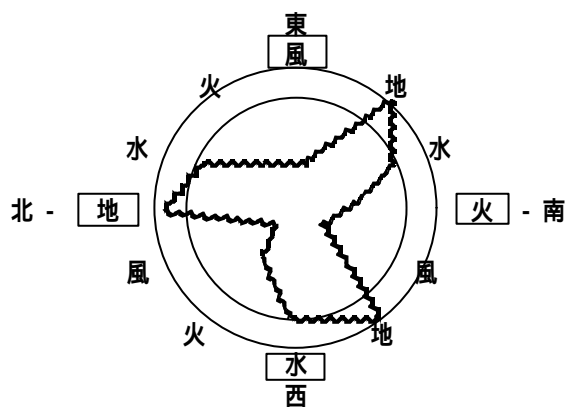
火の竜の軌跡



水の竜の軌跡



地の竜の軌跡



3 身辺の準備

a 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

b シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。シナリオの流れを暗記できなかったら、自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。

c 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

DC、DA、DV、DP、DBの順番で神殿に入る。

順番が来たら、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を放し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、入場の順番に司官たちが並ぶ。

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るDCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」DCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話の形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

DCは、いつもとは違い廊室の右の扉をくぐり、右の脇屋に入る。

少し遅れてDAとDVは、反対側の扉から左の脇屋に入る。

DPとDBは、DCの後を追うように、右の脇屋に入る。

参列者は、自分の直観で、どちらから下りるか選択する。

それぞれ、左右の脇屋に入った司官たちは、螺旋階段を下りていく。

右の脇屋にある螺旋階段は、南を向いた狭い長方形の扉から左に折れて、身体の左側を壁に押しつけるようにして下りる構造になっている。その螺旋階段は、滑らかな石の壁に彫り込まれた手すりのない石階段である。ちょうどパリのノートルダム寺院の階段のように、バランスを崩すとそのまま、右足から真下に落下してしまうような不安感がある。たった三階分地下に下るだけだが、螺旋階段の底は無限の彼方に続いているように深く、底は測り知れない臙な淵のように見える。

左の脇屋から地下に入った者は、それとは逆に北向きの入口から右に折れ、身体の右側を壁に押しつけるように下っていく。左足が地底に吸い込まれるように、恐ろしいのは同じである。

さて、地下1階の脇間に続く長方形の開口部が見える。右（左）の脇屋を下る者は、左（右）肩越しに香木で敷かれた床と儀式用具を納めた棚を瞥見するとさらに次の階層に下りていく。

次に垣間見えた地下2階に続く開口部のなかは、ぎらぎらと刃の輝きも禍々しい武器庫である。長槍、剣、斧、短矛、弓矢、パイク、盾、鎧、鉄球鎖、破碎鎚など多彩な武器、防具の類が整然と並べられている。

そして、いよいよ地下3階の開口部が見える。螺旋階段は、さらに下層に延びており、目眩のしそうな螺旋階段の作り出す渦の中心は、暗黒のなかに霞んで消えている。

ためらわずに、地下3階の脇間に踏みいる。

それぞれの脇間は、小さな礼拝堂のように作られており、東の奥には「炎の剣」を図案化したタピスリーがかけられている。左右におかれた低い長椅子は、ちょうど休憩か、礼拝に適した形になっているが、今回はそこに寄る余裕はない。

脇間の神殿内部へ通じる扉に向かうと、マルクトの女王の色階の四色で染め抜かれた格子縞の帳がかけられていた。DCが帳を割って別院のなかに入る。

DCは、ただ、ひとり、4面が開放されて、直接、四大の世界と直結している地下神殿の混沌とした空気のなかを進んだ。

南西の入口から真っ直ぐに祭壇の西に立つ。

DCは、呼吸と中央の柱で魔法鏡を活性化し、別院の境界までオーラを拡張し、四大の霊気が混沌と渦巻く別院の内部の空気にオーラを溶け込ませる。開放された四つの門から絶え間なく吹き寄せる四大の息吹が、DCの魔法鏡に直接ぶつかり、清涼な「風」、灼熱の「火」、流れる「水」、盤石の「地」の意志が拮抗する。

続いて、DCは、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式を行う。

東に面し、開門の宣言を行う。

「ヘカス ヘカス エステ ベペロイ」

さらに、物見の塔の儀式を応用し、騒擾する別院の霊気を安定させる。

祭壇の南側に行き、火の界に背を向け、祭壇からランプを取り上げる。正面（北）、右（東）、左（西）と三方向にランプを振り言う。
「総ての幻影が去りし後に、宇宙の隠されし深みを飛翔する聖なる形なき炎を見るであろう。
汝、火の声を聞け」
次に振り返り、祭壇を背中にし、南に面する。白と黒の柱の彼方に荒涼とした砂漠が広がる。直立した奇岩なのか、風化した巨石建造物なのか分からない、小山のような石の柱の間に、蜃気楼のようなオレンジ色のサラマンダーが闊歩している。
押し寄せる熱波に直面し、自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。
「B I T O M」
引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。
「A H I H」
別院の床の四半円が、他の部分から切り取ったように活性化される。
D C は、螺旋光のサインを応用し、五芒星を南のヤキンとボアズの間を抜け、四大の別院の南壁に接する火の界の境界面そのもののまで押し出し、火の界の上に刻印する。
L V X サインを行う。
次に火の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。
「O I P T E A A P E D O C E」
その中央に獅子宮のサインを書き、神名を振動させる。
「A L H I M」
D C は、別院の火の頂点から追儼の五芒星を螺旋光のサインにより、火の界の境界面そのもののまで押し出し、刻印する。五芒星が祭壇から南壁に飛ぶ間に、別院の4分の1の領域が完全に静まり、火の元素は、境界に固定された。
D C は、フィロソファスのサインを行う。
「大いなる南の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。
汝、南の物見の塔の天使よ」
別院の四半分は霊的に安定した。

祭壇の西側へ行き、水の界を背に盃を取り上げる。三方向に盃の水を注ぎ言う。
「最初に、火の技を治めし祭司は、荒れ狂う海に清めの水を撒かねばならぬ」
次に振り返り、祭壇を背中にし、西に面する。白と黒の柱の彼方に、次々と波頭の押し寄せる大海原が広がっている。白い波頭は、蹄の代わりに水掻きの生えた水棲の馬である。その鱗の生えた蒼い肌の上に、海の乙女たちが豊かな胸乳をさらして、手綱を御している。
自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。
「H C O M A」
引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。
「A G L A」
別院の床の四半円が、他の部分から切り取ったように活性化される。
D C は、螺旋光のサインを応用し、五芒星を西のヤキンとボアズの間を抜け、四大の別院の西壁に接する水の界の境界面そのもののまで押し出し、水の界の上に刻印する。
L V X サインを行う。
次に水の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。
「E M P E H A R S E L G A I O L」
その中央に鷲のサインを書き、神名を振動させる。
「A L」
D C は、別院の水の頂点から追儼の五芒星を螺旋光のサインにより、水の界の境界面そのもののまで押し出し、刻印する。五芒星が祭壇から西壁に飛ぶ間に、別院の4分の1の領域が完全に静まり、水の元素は、境界に固定された。
D C は、プラクティカスのサインを行う。
「大いなる西の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。
汝、西の物見の塔の天使よ」
別院の半分が霊的に安定した。

祭壇の東側に行き、風の界に背を向け、香炉を取り上げる。三方向に香炉を振り言う。
「かくのごとき炎、進む《風》のなかにあらん。また、《声の似姿》を放つ形なき《火》、さらに声高に叫ぶ《渦巻く炎の光》のなかにもあり」
次に振り返り、祭壇を背中にし、東に面する。白と黒の柱の彼方に、丈の高いヒースの草原の緩やかな起伏が見える。その背後には黄塵と、流れ行く遅しい雲の連なりが広がり、黄色っぽい空の雲間には、半透明な存在の乱舞する様子が伺える。

自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「E X A R P」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A H I H」

別院の床の四半円が、他の部分から切り取ったように活性化される。

D C は、螺旋光のサインを応用し、五芒星を東のヤキンとボアズの間を抜け、四大の別院の東壁に接する風の界の境界面そのもののまで押し出し、風の界の上に刻印する。

L V X サインを行う。

次に風の召喚の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「O R O I B A H A O Z P I」

その中央に宝瓶宮のサインを書き、神名を振動させる。

「I H V H」

D C は、別院の風の頂点から追儼の五芒星を螺旋光のサインにより、風の界の境界面そのもののまで押し出し、刻印する。五芒星が祭壇から東壁に飛ぶ間に、別院の4分の1の領域が完全に静まり、風の元素は、境界に固定された。

D C は、セオリカスのサインを行う。

「大いなる東の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。

汝、東の物見の塔の天使よ」

別院の四分の三が霊的に安定した。

祭壇の北に行き、地の界に背を向け皿から塩をつまみ上げ、三方向に撒いて言う。

「暗き輝きの地界に屈み込むなかれ。そこには、背信の深みと、闇を纏う冥府王が不可解なるイメージに悦び、風猛き絶壁、黒く逆巻く深淵は、つねに光放たぬ形なき虚しき場に連れ去るものなり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、北に面する。白と黒の柱の彼方に、峨々たる小暗い山脈が聳えている。緑の裾野には、無数の生命が満ちあふれているようだが、むしろ、黒い岩肌を晒した山肌に、煌めく金属的な光芒が散らついている。剥き出しの鉱脈の上をグノームの工具が叩いているのだろう。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「N A N T A」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「A G L A」

別院の床の四半円が、他の部分から切り取ったように活性化される。

D C は、螺旋光のサインを応用し、五芒星を北のヤキンとボアズの間を抜け、四大の別院の北壁に接する地の界の境界面そのもののまで押し出し、地の界の上に刻印する。

L V X サインを行う。

次に地の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「E M O R D I A L H E C T E G A」

その中央に金牛宮のサインを描き、神名を振動させる。

「A D N I」

D C は、別院の地の頂点から追儼の五芒星を螺旋光のサインにより、地の界の境界面そのもののまで押し出し、刻印する。五芒星が祭壇から北壁に飛ぶ間に、別院の4分の1の領域が完全に静まり、地の元素は、境界に固定された。

D C は、ジェレイターのサインを行う。

「大いなる北の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。

汝、北の物見の塔の天使よ」

別院全体が霊的に安定した。

祭壇の西に行き東面する。深紅の薔薇で霊の能動と受動の召喚の五芒星を描く。

「E X A R P	A H I H
H C O M A	A G L A
N A N T A	A G L A
B I T O M	A H I H」

続けて言う。

「神秘なる統一のタブレットの名前と文字において、われ汝を召喚す。

汝、生命の霊の神聖なる諸力よ」

花を置き、ヴェールを開くポータルサインを行う。

「われ汝を召喚す。汝、不可視の座に住まう天球の天使たちよ。
汝は宇宙の門の守護者にして、またこの神秘なる球の守護者なり。
邪悪なるもの、均衡を失いしものを遠ざけよ。
永遠の神々の神秘の住居を汚さざるため、われに力と霊氣を与えよ。
われがその中に入り、神聖なる光の秘密を分かたため、わが球を清浄かつ神聖たらしめよ」

DCは、魔法鏡の内部の安定し、活性化した霊氣を徐々に変容させていく。
天使たちの降臨により、激発する直前まで高められた魔術師の意志が、神殿の外壁、すなわち拡張されたDCの魔法鏡の表面に、四色の糸を出現させ、その四大の性質を有した縦糸と横糸が、霊の指に紡がれて彩なす錦の帳を織り込んでいく。それと同時に白色を基調とした魔法鏡の内部の霊氣が、徐々に赤化し、黄土色のぼやけた色調から、黄金の光を放つ魔術師の霊氣に統合された。別院は、黄金の光に満たされた。

これらが完全に成し遂げられたら、神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

DCの霊的な鈴の合図で、DAを先頭に別院の南西の入口から、そして、同時にDPを先頭に別院の北西の入口から、司官と参列者が入場を開始する。
司官は入口から直接、自分の場に向かった。参列者は、それぞれ選んだ四隅点に向かう。

DCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。
DC：「I O S の兄弟姉妹たちよ。別院の儀式を開始せん。」

DB：「天を突く峻峰の頂きより、闇よりも深き地の深淵より、
極北の星の凍てついた光のもと、大いなる大地が汝を呼ぶ。
アアアア・・・ラアアア・・・ル。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
西の玉座の前にいるDVは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシヤブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使アラルのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDVの霊的外形が急激に変化する。DVが答える。
DV：「われは、エシュ・アラル。元素の火の守護天使なり。
星辰の火の運び手にして、火竜を御する者なり。」

東からDAが発言する。
DA：「常に動きて止まらざる雲間より、谷間を吹きすぎる突風の陰より、
虹の最上点から、大いなる風が汝を呼ぶ。
タアアア・・・リイイイ・・・アアアア・・・ハド。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
西の玉座の前にいるDPは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシヤブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使タリアハドのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDPの霊的外形が急激に変化する。DPが答える。
DP：「われは、エシュ・タリアハド。元素の水の守護天使なり。
星辰の水の運び手にして、水竜を御する者なり。」

西からDPが発言する。
DP：「変幻する水面に映ろう月影が誘うごとく、
ざわめく大海より、蒼穹の水が汝を呼ぶ。
チャアアア・・・サアアア・・・ン。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
東の玉座の前にいるDAは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシヤブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使チャサンのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDAの霊的外形が急激に変化する。DAが答える。
DA：「われは、エシュ・チャサン。元素の風の守護天使なり。
星辰の風の運び手にして、風竜を御する者なり。」

南からDVが発言する。
DV：「乾いた石の上を炙る熱氣が、森林を覆い尽くす大火に変わる。

沸きたつ火山の内奥より、大いなる炎が汝を呼ぶ。
フオオオ・・・ルウウウ・・・ラアアア・・・ク。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。

汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

北の玉座の前にいるDBは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシャブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使フォルラクのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDBの霊的外形が急激に変化する。DBが答える。

DB：「われは、エシュ・フォルラク。元素の地の守護天使なり。
星辰の地の運び手にして、地竜を御する者なり。」

四司官が召喚を終了したとき、神殿の中心からDCが発言する。

DC：「荒ぶる神殿の外庭より、四つの竜が誕生せん。
天地を結ぶ光と闇の柱が顕現し、
竜を束ねる宇宙の軸とならん。
アアア・・・ムウウウ・・・ディイイ・・・エル。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

祭壇の傍らにいたDCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、天使アムディエルのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDCの霊的外形が急激に変化する。DCが答える。

DC：「われは、エシュ・アムディエル。
ケテルとマルクトを結ぶは、われなり。
竜を束ねるはわれなり。
竜は、われを回さん。」

DCが発言する。

DC：「マルクトの天使アシムよ。
四方位に四大の王を喚起し、門を固定せよ。」

DVは、門を通し、南方を向く。大剣を軽々と振り上げ、切っ先で等腕十字架とそれに外接する円を描く。

DV：「わが有する神聖なる火の紋章により、われ汝を喚起す、ジンよ。
聖なる火の王よ、火界の狭間に立ちて、火の軍勢を統率せよ。」

DVは、内側を向く。

DPは、門を通し、西方を向く。シェーヌの先に吊した銀の水差しで等腕十字架とそれに外接する円を描く。

DP：「わが有する神聖なる水の紋章により、われ汝を喚起す、ニクサよ。
聖なる水の王よ、水界の狭間に立ちて、水の軍勢を統率せよ。」

DPは、内側を向く。

DAは、門を通し、東方を向く。王笏で等腕十字架とそれに外接する円を描く。

DA：「わが有する神聖なる風の紋章により、われ汝を喚起す、パラルダよ。
聖なる風の王よ、風界の狭間に立ちて、風の軍勢を統率せよ。」

DAは、内側を向く。

DBは、門を通し、北方を向く。真鍮の器で等腕十字架とそれに外接する円を描く。

DB：「わが有する神聖なる地の紋章により、われ汝を喚起す、ゴープよ。
聖なる地の王よ、地界の狭間に立ちて、地の軍勢を統率せよ。」

DBは、内側を向く。

DCが宣言する。

DC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。」

四人の司官は、玉座を離れ祭壇に近づいて、両手を互いに握り祭壇を囲む。

DCは、祭壇に聖なる書物を置き、司官たちの腕の輪の上に手をかざす。

DV：「I a H a V a H a」

DP：「H e V e H e I e」

DA：「V o H o I o H o」

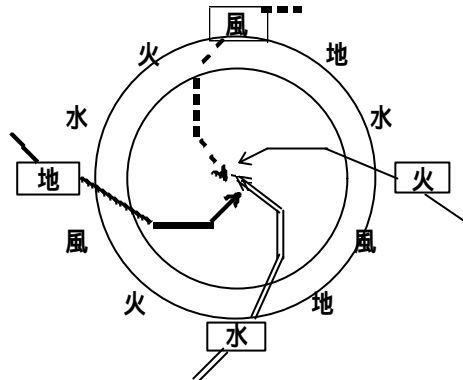
D B : 「 H I H V 」

D C が宣言する。

D C : 「大いなる周行をもって、跳躍する竜の術式を執行せん。」

司官はそれぞれ左周りの渦を構成するように、右肩を神殿の壁に向けて立つ。

最も引力の強い四大の場を同時に出発し、円の四半分づつ遅れながら四大の竜の頭の動きを模写し、三回周行する。全く別個の運動を、しかし、リズムを同期させて行う周行により、別院の四つの門を通して、元素の霊の精髓なるものが神殿の内部に左回りの内向螺旋を描きながら入り込んできた。それぞれの司官は、9つのうねりを経験する。このとき参列者は、竜に巻き込まれない位置で、別院の内部の霊的な渦に思念を集中せよ。



D A : 「神秘なる周行は完成し、竜は天球を周回せり。
昼と夜は均衡し、春分は到来せり。」

D A は祭壇に東から、D V は西から近づく。

D A は、ホルスのサインを行う。D A と D V は、祭壇の上に身を乗り出し、他者に聞かれぬようパスワードを交換する。

D A : 「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」

D A と D V は、身を離し、D V がハーボクラテスのサインを行う。

今度は D V がホルスのサインを行い、両者は身を乗り出して、パスワードを交換する。

D V : 「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」
身を離し、D A がハーボクラテスのサインを行う。

D C : 「パスワードは交換された。」

司官を含めた全員が祭壇を取り囲む。

D C : 「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、祭壇に注ぎ込まん。
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み人間の輪のなかに祭壇を包み込む。手を放すことなく次を唱える。

全員 : 「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員 : 「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

D C : 「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」

先ほどとは逆の右回りの周行が開始される。神殿内部の圧力が右周りの螺旋となって、四大の門から放出されていく。

D C : 「神秘なる逆周行は完成した。門を解放せん。」

D B は、北の門に向き直り、真鍮の器を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。

D B : 「汝が助力に謝せん。地の王よ。」

門を解き放ち、緑の大地に戻るべし。」

D A は、東の門に向き直り、王笏を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。

D A：「汝が助力に感謝せん。風の王よ。
門を解き放ち、蒼穹に戻るべし。」

D P は、西の門に向き直り、水差しを用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。

D P：「汝が助力に感謝せん。水の王よ。
門を解き放ち、海神の領域に戻るべし。」

D V は、南の門に向き直り、大剣を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。

D V：「汝が助力に感謝せん。火の王よ。
門を解き放ち、炎の火口に戻るべし。」

D C：「マルクトの天使アシムよ。
砂時計を通り、イエツィラーに戻るときが来た。
魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

D C：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
エシュ・アムディエルは、肉の衣を去れり。」

D B：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。大地の輝きと喜びに、感謝を捧げん。
主の栄光はあまねく地上を満たし、われらに恵みをもたらしたり。
主よ、地母神たる大地と人の子らに、愛と祝福を与えたまえ。
エシュ・フォルラクは、肉の衣を去れり。」

D A：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。天の音楽の響く大空に、感謝を捧げん。
主の御言葉は、星々の歌声に彩られ、われらに希望をもたらしたり。
主よ、やさしき風と人の子らに、英知と祝福を与えたまえ。
エシュ・チャサンは、肉の衣を去れり。」

D P：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。生命の生まれ滅する大海に、感謝を捧げん。
主の御手の指は、すべての被造物に、色鮮やかな輝きをもたらしたり。
主よ、万物の生命の母たる水と人の子らに、多様さと祝福を与えたまえ。
エシュ・タリアハドは、肉の衣を去れり。」

D V：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。躍動する炎の力に、感謝を捧げん。
主の聖なる火花は、砂のひとつぶたりと見逃さず、靈魂をもたらしたり。
主よ、久遠の霊の表象たる火と人の子らに、力と祝福を与えたまえ。
エシュ・アラルは、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

D C：「人の子らよ。アシムは、去れり。地上に帰還せん。」

四大の別院に入ってきたときと同様に二手に分かれて出口に向かう。
出口において、祭壇に一礼し、脇間に入る。
地下3階の礼拝所の奥の燃える剣の囿に十字を切り、階段室に入る。

最後に残ったD Cが、祭壇に一例し、《ヴェールを閉じる》サインを行う。

D C：「I H S h V HとI H V S h Hの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

D Cは、別院の北西の扉を封印する。自身は、南西の扉をくぐり、脇間から扉を封印する。

帳が閉じる瞬間に、すべての霊的統制が解かれ、再び四大の息吹が荒々しく渦を巻く別院の内部が垣間見える。

DCは、地上へと螺旋階段を登り、神殿の廊室に入る。
DC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。
静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。
普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

マルクトの天使 A S h M（単数形 A S h）のテレズマ的イメージ

天使アムディエル

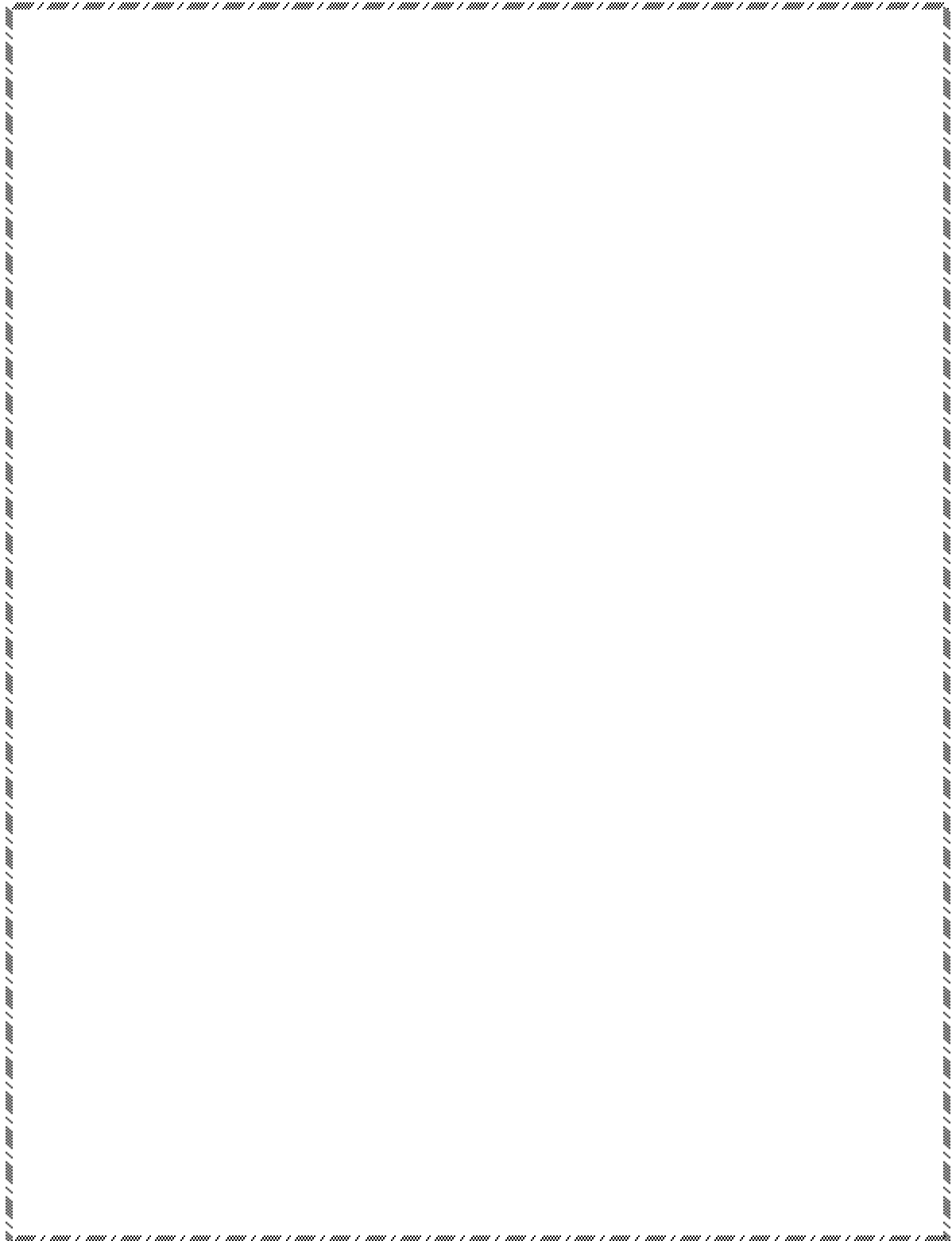
天使チャサン

天使アラル

天使タリアハド

天使フォルラク

儀式記録用メモランダム

A large rectangular area enclosed by a dashed border, intended for recording ceremony details. The border is composed of short, slanted line segments forming a continuous frame.

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXC

春分儀式 VE99A

Copyrights © All rights reserved I O S 1999
1999年3月14日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。